

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
国語	現代の国語	定（昼）	前期（２）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 全学科前期で履修します。		・ 新編 現代の国語（大修館書店） ・ プリント等		
科 目 の 目 標 と 概 要				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		【前期】 コミュニケーションは技術だ（鴻上尚史） 声を意識しよう 正しく書こう 正しく読もう ことばを選んで話そう 文を整え、文をつなぐ 人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか（山極寿一） 絵や写真を説明しよう 手順を説明しよう 聞き取りのレッスン ショートスピーチをしよう 水の東西（山崎正和） 対話のレッスン 話し合って結論を出そう 意見文の基礎を学ぼう 反対意見を想定した意見文を書こう 情報の吟味 情報の力関係（佐藤雅彦） プレゼンテーションをしよう 何のために働くのか（姜尚中）ほか		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・ 教科書を中心にプリント、資料等を用いて授業を進めます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ 特になし。		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
国語	現代の国語	定（夜）	通年（２）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 全学科通年で履修します。		・ 新編 現代の国語（大修館書店） ・ プリント等		
科 目 の 目 標 と 概 要				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		【前期】 コミュニケーションは技術だ（鴻上尚史） 声を意識しよう 正しく書こう 正しく読もう ことばを選んで話そう 文を整え、文をつなぐ 人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いのか（山極寿一） 絵や写真を説明しよう 手順を説明しよう 聞き取りのレッスン ショートスピーチをしよう 水の東西（山崎正和） ほか 【後期】 対話のレッスン 話し合って結論を出そう 意見文の基礎を学ぼう 反対意見を想定した意見文を書こう 情報の吟味 情報の力関係（佐藤雅彦） プレゼンテーションをしよう 何のために働くのか（姜尚中） ほか		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・ 教科書を中心にプリント、資料等を用いて授業を進めます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ 特になし。		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
国語	言語文化	定（昼）	後期（２）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・全学科後期で履修します。		・新編 言語文化（大修館書店） ・プリント等		
科 目 の 目 標 と 概 要				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 - 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 - 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		【後期】 （現代文編） 言葉の森を育てよう（ドリアン助川） とんかつ（三浦哲郎） 羅生門（芥川龍之介） 春のうた 夏のうた 秋のうた 冬のうた ほか （古文編） 古文への招待 児のそら寝 徒然草（奥山に猫またといふもの など） 枕草子（春はあけぼの、うつくしきもの など） 平家物語（木曾の最期 など） 土佐日記（門出、旅の終わり など） ほか （漢文編） 訓読のきまり 守株 論語（学問のすすめ など） 人面桃花 ほか		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・教科書を中心にプリント、資料等を用いて授業を進めます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・特になし。		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
国語	言語文化	定（夜）	通年（２）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 全学科通年で履修します。		・ 新編 言語文化（大修館書店） ・ プリント等		
科 目 の 目 標 と 概 要				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
・ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		【前期】 （現代文編） 言葉の森を育てよう （ドリアン助川） 漢字と仮名の使い分け （阿辻 哲次） 羅生門 （芥川龍之介） 春のうた 夏のうた 秋のうた 冬のうた ほか （古文編） 古文への招待 児のそら寝 ほか 【後期】 （古文編） 徒然草（奥山に猫またといふもの など） 枕草子（春はあけぼの、うつくしきもの など） 平家物語（木曾の最期 など） 土佐日記（門出、旅の終わり など） ほか （漢文編） 訓読のきまり 守株 論語（学問のすすめ など） 人面桃花 ほか		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・ 教科書を中心にプリント、資料等を用いて授業を進めます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ 特になし。		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	地理総合	定（昼）	前期（2）/後期（2）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
特になし		・高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる（第一学習社） ・標準高等地図（帝国書院）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 【後期】 ・様々な地図を用いて、情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 ・世界の特色ある生活文化と地理的環境とのかかわりや地球的課題の解決の方向性を捉える学習などを通して、国際理解や国際協力の重要性を理解する。 ・地域性を踏まえた防災について、持続可能な地域づくりなどに着目して、自然災害への備えや対応などを考察し、表現する力を身に付ける。		【前期】 【後期】 1 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 ・球面状の世界と地図 ・国家の結びつきとグローバル化する世界 2 国際理解と国際協力 ・生活文化の多様性と国際理解 ・地球的課題と国際協力 3 持続可能な地域づくりと私たち ・自然環境と防災 ・生活圏の調査と地域の展望		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
現代世界の成り立ちを地理的側面から学んでいきます。また、世界各地域の特徴や国際問題や地域の抱える問題など幅広く考察していきたいと思います。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
な し		生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	地理総合	定（夜）	通年（2）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 特になし		・ 高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる（第一学習社） ・ 標準高等地図（帝国書院）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 【後期】 ・ 世界を捉えるための地理的技能の習得を目指す。 ・ 世界の特色ある生活文化と地理的環境とのかかわりや地球的課題の解決の方向性を捉える学習などを通して、国際理解や国際協力の重要性を認識する。 ・ 国内外の防災や生活圏の地理的な課題から地域性を踏まえた課題解決に向けた取組のあり方を構想する学習を通して、持続可能な地域づくりを展望する。		【前期】 【後期】 ・ 地図や地理情報システムでとらえる現代社会 地図や地理情報システムと現代社会 国家の結びつきとグローバル化する社会 など ・ 国際理解と国際協力 生活・文化の多様性と国際理解 地球的課題と国際協力 など ・ 持続可能な地域づくりと私たち 自然環境と防災 生活圏の調査と地域の展望 など		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・ 現代世界の成り立ちを地理的側面から学んでいきます。また、世界各地域の特徴や国際問題や地域の抱える問題など幅広く考察していきたいと思います。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
なし		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	歴史総合	定（昼）	前期(2)/後期(2)	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
特になし		・ 歴史総合 新訂版（実教出版） ・ プリント 他		
科 目 の 目 標 と 概 要				
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】【後期】 ・現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付ける。 ・歴史の変化に関わる事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		【前期】【後期】 1 歴史の扉 2 近代化と私たち ・近代化への胎動 ・欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 ・欧米諸国と日本の国民国家形成 ・帝国主義の時代 2 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第一次世界大戦と大衆社会 ・経済危機と第二次世界大戦 3 グローバル化と私たち ・冷戦と脱植民地化 ・多極化する世界 ・グローバル化と現代社会		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・教科書を中心にプリント、資料等を用いて学習を進めます。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象に対し、自分の意見を書いたり述べていたりして表現してください。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
な し		生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	歴史総合	定（夜）	通年（２単位）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・特になし		・歴史総合（実教出版） ・プリント 他		
科 目 の 目 標 と 概 要				
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
・ 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付ける。 ・ 歴史の変化に関わる事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・ 日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。		・ 歴史の扉 ・ 近代化と私たち ・ 近代化への胎動 ・ 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 ・ 欧米諸国と日本の国民国家形成 ・ 帝国主義の時代 ・ 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・ 第一次世界大戦と大衆社会 ・ 経済危機と第二次世界大戦 ・ グローバル化と私たち ・ 冷戦と脱植民地化 ・ 多極化する世界 ・ グローバル化と現代社会		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・ 教科書を中心にプリント、資料等を用いて学習を進めます。 ・ 近現代の歴史の変化に関わる事象に対し、自分の意見を書いたり述べたりして表現してください。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ なし		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
公民	公共	定（昼）	前期（2）/後期（2）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・特になし		・公共 新訂版（東京法令出版） ・プリント・新聞記事など		
科 目 の 目 標 と 概 要				
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
・公共的な空間を作る主体として「よりよい社会」のあり方について多角的・多面的に考察し追及することができる。 ・政治などの集団の意思を決定するために、どのような過程やシステムがあるのかを知り自らがどのように関わればよいかを考える。 ・基礎的な経済を知り、経済活動を持続的に行う仕組みについて考え、表現することができる。 ・国際政治・経済の仕組みを知り、国際社会での問題について考える。 ・持続可能な社会を目指して、現代社会の諸問題に資料等を活用して考え、論述することができる。		1 公共の扉をひらくために ・公共的な空間をつくる ・公共的空間における人間としての在り方・生き方 ・民主政治・日本国憲法など 2 よりよい社会の形成に参加する ・日本の政治機構と政治参加 ・経済の仕組み ・変化する日本経済 ・豊かな社会の実現 ・国際政治のしくみと動向 ・国際経済のしくみと動向 ・国際社会の現状と課題 3 持続可能な社会をつくるために ・民主主義、日本の格差問題、科学技術の発展 外国人との共生など		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・現代社会の諸問題に対して、自分の問題としての意識をもって取り組んでほしい。 ・積極的に自分の考えを記述したり、意見を発表したりしてほしい。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・なし		・生徒の実態や行事、担当者の出張等により 進度などに変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
公民	公共	定（夜）	通年（２単位）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・特になし		・公共 新訂版（東京法令出版） ・プリント・新聞記事など		
科 目 の 目 標 と 概 要				
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
・公共的な空間を作る主体として「よりよい社会」のあり方について多角的・多面的に考察し追及することができる。 ・政治などの集団の意思を決定するために、どのような過程やシステムがあるのかを知り自らがどのように関わればよいかを考える。 ・基礎的な経済を知り、経済活動を持続的に行う仕組みについて考え、表現することができる。 ・国際政治・経済の仕組みを知り、国際社会での問題について考える。 ・持続可能な社会を目指して、現代社会の諸問題に資料等を活用して考え、論述することができる。		1 公共の扉をひらくために ・公共的な空間をつくる・ ・公共的空間における人間としての在り方・生き方 ・民主政治・日本国憲法など 2 よりよい社会の形成に参加する ・日本の政治機構と政治参加 ・経済の仕組み ・変化する日本経済 ・豊かな社会の実現 ・国際政治のしくみと動向 ・国際経済のしくみと動向 ・国際社会の現状と課題 3 持続可能な社会をつくるために ・民主主義、日本の格差問題、科学技術の発展 外国人との共生など		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・現代社会の諸問題に対して、自分の問題としての意識をもって取り組んでほしい。 ・積極的に自分の考えを記述したり、意見を発表したりしてほしい。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・なし		・生徒の実態や行事、担当者の出張等により進度などに変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
数学	数学Ⅰ	定(昼)	通年(4)	必履修
		定(夜)	通年(4)	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・総合ビジネス科以外は、1年次の受講が望ましい。総合ビジネス科は2年次の受講が望ましい。		・高校数学Ⅰ 新訂版（実教出版）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 ・数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 ・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。		【前期】 1章 数と式 4章 集合と論証 5章 データの分析		
【後期】 ・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。		【後期】 2章 2次関数 3章 三角比		
年間を通して適切な時期に課題学習を実施する。				
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・教科書の内容に基づいて学習を進めます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・特になし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
理科	科学と人間生活	定（昼）	前期（２）・後期（２）	選択必修修
		定（夜）	通年（２）	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 特になし		・ 高等学校 改訂 科学と人間生活（第一学習社） ・ プリント ほか		
科 目 の 目 標 と 概 要				
自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
・ 日常生活にみられる身近な物質の素材となる材料の種類、性質、用途について理解する。 ・ DNAの構造、タンパク質の合成、血糖濃度の調節、免疫のしくみ、多様な微生物と生態系での働き、微生物と人間生活とのかかわりについて理解する。 ・ 熱の性質やエネルギーの変換と保存、有効利用、および光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解する。 ・ 身近な自然景観の成り立ちと自然災害、および太陽や月などの身近にみられる天体と人間生活とのかかわり、太陽系における地球について理解する。		○材料とその利用 プラスチックの分類と用途 金属と人間生活・金属とその製錬 ○ヒトの生命現象 遺伝子とDNA 病原体の排除 ヒトの視覚 ○微生物とその利用 身近な微生物・食品と微生物 医薬品と微生物 ○光の性質とその利用 光の発生と速さ 光の反射・屈折 電磁波の種類とその利用 ○太陽と地球 太陽と太陽系 太陽系を構成する天体 太陽と月の動き		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
実験・観察などを通して、身近な現象や物質から宇宙にいたるまでの幅広い分野について科学的に考察します。自ら興味を持って学び、考える姿勢が大切です。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ 特になし		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形 態	開講期（単位数）	必選別
理科	物理基礎	定（昼）	前期（２）後期（２）	選択必修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 特になし		・ 高校物理基礎新訂版 （実教出版） ・ プリント ほか		
科 目 の 目 標 と 概 要				
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養います。				
科 目 の ね ら い			お も な 学 習 内 容	
（１） 日常生活で起こる事物・事象について、観察・実験を通して、物理的原理・法則や学習する。 （２） 物体の運動とエネルギーについて観察・実験などを通し、運動の表し方や様々な力とその働き、また、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を見出し表現する。 （３） 波動・電気の分野について、それらが持つ法則性や原理を実験や日常生活で起こる事象を元に学習する。 （４） 物理学と社会の関わりについて学ぶ。			1 章 物体の運動 ・ 運動の表し方 ・ 力と運動の法則 2 章 エネルギー ・ 運動とエネルギー ・ 熱とエネルギー 3 章 波 ・ 波の性質 ・ 音と振動 4 章 電気 ・ 物質と電流 ・ 磁場と電流 5 章 物理と社会 ・ エネルギーとその利用	
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
実験・観察などを通して、身近な物理現象やエネルギーについて科学的に考察します。自ら興味を持って学び、考える姿勢が大切です。				
実 習 材 料 費 な ど			留 意 事 項 な ど	
・ 特になし			・ 生徒の実態、学校行事、担当者の出張等の事情により進度に変更がある場合があります。	

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
理科	化学基礎	定（昼）	前期（２）・後期（２）	選択必履修
		定（夜）	通年（２）	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 特になし		・ 改訂新編化学基礎（東京書籍） ・ プリントほか		
科 目 の 目 標 と 概 要				
実験・観察などを通して、実際に見て触れることにより、物質の性質について理解を深めます。原子などミクロの世界から高分子などのマクロの世界まで、身近な生活や環境を取り上げ、科学的な視点から考察します。さらに、学習した内容をレポートにまとめ、発表することにより、自らの考えを具体的にまとめます。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
物質の基本的な構造や性質を実験・観察を通して学習し理解を深めます。 また、私たちの生活や環境などを科学的な観点から考察し、学習します。		○化学とは何か ○物質の構成 ・ 物質の成分と構成元素 ・ 原子の構造と元素の周期表 ・ 化学結合 ○物質の変化 ・ 物質量と化学反応式 ・ 酸と塩基 ・ 酸化還元反応		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
身近な事物・事象を中心に取り扱い、化学の基礎的・基本的内容を広く学習します。また、実験・観察を取り入れ、実験器具の安全な使用方法や科学的な考え方について学びます。自ら考えて学習に取り組む姿勢が必要です。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ 特になし		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
理科	生物基礎	定（昼）	前期（2）・後期（2）	選択必修
		定（夜）	通年（2）	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・特になし		・高校生物基礎visual（実教出版）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
1 章 生物の特徴 生物に共通にみられる特徴とその生命活動を維持するための反応について学習する。		・生物の多様性と共通性 生物の特徴、細胞にみられる共通性と多様性 ・生物とエネルギー 生命活動を支える代謝、生体内のエネルギー変換		
2 章 遺伝子とその働き 遺伝子の本体であるDNAの構造とその働きについて学習する。		・遺伝情報とDNA DNAの構造、細胞分裂とDNA ・遺伝情報とタンパク質の合成 DNAとタンパク質合成、生命現象を支えている遺伝子		
3 章 ヒトのからだの調節 体内のさまざまな器官の働きで体内の状態をコントロールしていくしくみについて学習する。		・体内環境の維持のしくみ 体液・自律神経系・内分泌系による調節 ・免疫 自然免疫・獲得免疫のしくみ		
4 章 生物の多様性と生態系 生物と多様な環境についての関係と環境の保全について学習する。		・生態系とその成り立ち 生態系、植生とその変化、遷移 ・植生とバイオーム 世界のバイオーム、日本のバイオーム ・生態系のバランスと保全 生態系のバランス、人間生活による影響		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
授業で生物学の基本的な概念の形成を図り、実験・観察を通して生物学的に探究する方法を学び、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成します。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・特になし		・生徒の実態や行事の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
理科	地学基礎	定（昼）	前期（２）後期（２）	選択必修
		定（夜）	通年（２）	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 特になし		・ 地学基礎新訂版（実教出版） ・ プリント ほか		
科 目 の 目 標 と 概 要				
地学の基本的な概念や原理・法則について観察、実験などを通して学習し、地学的に探究する能力と態度や科学的なものの見方や考え方を養う。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
(１) 地球の形や大きさを観察や測定結果から捉え、更に内部構造まで理解させる。		○地球の構成と運動 ・ 地球の構造		
(２) プレーテクトニクス理論と地球の大地形や地震、火山活動、地質構造等との関連性を見出す。		・ プレーートの運動 ・ 火山と地震		
(３) 大気、海洋それぞれの層構造と区分の特徴を学ぶとともに大気と海洋の循環を、エネルギー収支を基に考え理解させる。また、地球の環境と人間生活とのかかわりについて考察する。		○大気と海洋 ・ 大気の構造と運動 ・ 大気の大循環 ・ 海洋の構造と海水の運動 ・ 日本の四季と気象と気候		
(４) 宇宙の誕生と地球の形成について観察、実験などを通して探究し、宇宙と、惑星としての地球の特徴を学ぶ。		○宇宙、太陽系と地球の誕生 ・ 宇宙の誕生 ・ 太陽の誕生 ・ 惑星の誕生と地球の成長		
(５) 化石や地層の堆積物から地球環境の変遷を推測し、生物の繁栄や絶滅には環境の変化が影響していること学ぶ。		○古生物の変遷と地球環境の変化 ・ 地層のつき方 ・ 化石と地質時代の区分 ・ 古生物の変遷と地球環境		
(６) (１)～(５)の学習を踏まえ、持続可能な地球環境の構築について考える。		○地球の環境 ・ 日本の自然環境 ・ 地球環境の科学		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
実験・観察などを通して、地学の基本的な概念や原理・法則について科学的に考察します。自ら興味を持って学び、考える姿勢が大切です。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ 特になし		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
保健体育	体育	定（昼）	通年（２）	必履修
		定（夜）	通年（２）後期（１）	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
年間４単位（卒業見込み年度を除く）		現代高等保健体育改訂版		
科 目 の 目 標 と 概 要				
健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】【後期】 いろいろな手軽な運動やリズムカルな運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、精神的なストレスの解消に役立つようにするなど体と心の安定をはかる。 球技において、ボールなどを用い、集団的技能、個人的技能を発揮し、集団対集団、あるいは個人対個人で攻撃と防御を展開し得点を取り合って勝敗を競う。そして、それぞれの運動種目独自のルールによって展開されるゲームを技能の段階に応じて作戦を立てて勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。		【前期】【後期】 ○体づくり運動 ・体ほぐし運動 ・体力を高める運動 ○球技・武道 ・バスケットボール ・ビーチボールバレー ・バドミントン ・卓球 ・フレッシュテニス ・フットサル ・剣道 柔道 ○ダンス ・フォークダンス ・現代的なリズムのダンス ○新体力テスト ○体育理論		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
体力は日常生活を送る上で重要な役割を果たしています。体力を高めるためには、運動することが必要です。しかし、ただ運動すれば良いというわけではありません。どうすれば体力が高まるか学んでいきましょう。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
学校指定の体育服を着用して行います。ピアス、ネックレス等のアクセサリ類は全てはずして授業に参加することになります。		生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
保健体育	保健	定（昼）	後期（２）	必履修
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
特になし		現代高等保健体育 改訂版（大修館）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
科目のねらい		お も な 学 習 内 容		
【後期】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		【後期】 1. 現代社会と健康 健康の考え方と成り立ち方、私たちの健康のすがた、生活習慣病の予防と回復、がんの原因と予防、がんの治療と回復、運動と健康、食事と健康、休養・睡眠と健康、喫煙と健康、飲酒と健康、薬物乱用と健康、精神疾患の特徴、精神疾患の予防、精神疾患からの回復、現代の感染症、感染症の予防、感染症・エイズとその予防、健康に関する意志決定・行動選択、健康に関する環境づくり 2. 安全な社会生活 交通事故の現状と要因、安全な社会の形成、交通における安全、応急手当の意義とその基本、日常的な応急手当、心肺蘇生法 3. 生涯を通じる健康 ライフステージと健康、思春期と健康、性意識と性行動の選択、妊娠・出産と健康、避妊法と人工妊娠中絶、結婚生活と健康、中高年期と健康、働くことと健康、労働災害と健康的な職業生活 4. 健康を支える環境づくり 大気汚染と健康、水質汚濁・土壌汚染と健康、環境と健康に関わる対策、ごみの処理と上下水道の整備、食品の安全性、食品衛生にかかわる活動、保健サービスとその活用、医療サービスとその活用、医薬品の制度とその活用、さまざまな保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
身近なことや時事問題と関連付けて、プリントやDVDなどを活用して、分かりやすく進めていこうと考えています。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
特になし		生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
保健体育	保健	通（昼）	前期・後期（各2）	必履修
		通（夜）	後期（2）	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
特になし		現代高等保健体育 改訂版（大修館）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
科目のねらい	お も な 学 習 内 容			
【1～6回】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	【1～6回】 1. 現代社会と健康 健康の考え方と成り立ち方、私たちの健康のすがた、生活習慣病の予防と回復、がんの原因と予防、がんの治療と回復、運動と健康、食事と健康、休養・睡眠と健康、喫煙と健康、飲酒と健康、薬物乱用と健康、精神疾患の特徴、精神疾患の予防、精神疾患からの回復、現代の感染症、感染症の予防、感染症・エイズとその予防、健康に関する意志決定・行動選択、健康に関する環境づくり 2. 安全な社会生活 交通事故の現状と要因、安全な社会の形成、交通における安全、応急手当の意義とその基本、日常的な応急手当、心肺蘇生法 3. 生涯を通じる健康 ライフステージと健康、思春期と健康、性意識と性行動の選択、妊娠・出産と健康、避妊法と人工妊娠中絶、結婚生活と健康、中高年期と健康、働くことと健康、労働災害と健康的な職業生活 4. 健康を支える環境づくり 大気汚染と健康、水質汚濁・土壌汚染と健康、環境と健康に関わる対策、ごみの処理と上下水道の整備、食品の安全性、食品衛生にかかわる活動、保健サービスとその活用、医療サービスとその活用、医薬品の制度とその活用、さまざまな保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加			
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
面接指導の際に、プリントのポイントなどを説明します。				
実 習 材 料 費 な ど	留 意 事 項 な ど			
特になし	生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。			

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
芸術	音楽Ⅰ	定（昼）	通年（２）	選択必履修
		定（夜）	通年（２）	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・特になし		・MOU S A 1（教育芸術社）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 ・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かな物にしていく態度を養う。		【前期/後期】 歌唱 ・歌う時の姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方に注意して、歌唱する。 ・曲の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現になるよう工夫し歌唱する。 器楽 ・ギターの正しい奏法を身に付け、コードを理解し演奏する。 ・箏の正しい奏法を身に付け、演奏する。 ・キーボードの正しい奏法を身に付け、演奏する。 創作 ・オリジナルのリズムをつくる。 ・コード進行をもとにメロディーをつくる。 鑑賞 ・日本の伝統音楽について学び鑑賞する。 ・西洋音楽について学び楽曲を鑑賞する。		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・自分の知っている音楽、興味のあるジャンル以外にも、色々な音楽があります。音楽を自分で表現したり、鑑賞したりすることを通して、自分の心が動くことを楽しみましょう。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・特になし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の都合により変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
芸術	美術Ⅰ	定（昼）	通年(2)	選択必修
		定（夜）	通年(2)	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 特になし		新・高校生の美術Ⅰ（日本文教出版） 参考作品		
科 目 の 目 標 と 概 要				
・ 美術の鑑賞と創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てる。 発展的な美術の創造活動を通して、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 身近な題材から自己を見つめ、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てる。		【前期】 オリエンテーション 素描 ・ 身近なものを描く ・ 風景を描く 絵画 ・ 自画像		
【後期】 発展的な美術の創造活動を通して、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。		【後期】 立体 ・ 身近な素材と立体表現 命を吹き込むアートの力 版画 ・ ドライポイント作品制作 絵画、映像 ・ コマ撮りアニメーション 動きの可能性		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
作品の形や色など、構想を練りながら自分のイメージに合った作品を制作することを大切にしてほしいです。 日頃から美術やもののデザイン等に関心を持って、作品制作に挑むと、今までに見てきたデザインを参考にして、新しい発想の作品も作ることもできます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ 画材代など		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
芸術	書道Ⅰ	定（昼）	通年(2)	選択必履修
		定（夜）	通年(2)	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・特になし		・書Ⅰ（光村図書） ・自主教材		
科 目 の 目 標 と 概 要				
中学校で学習した「書写」を基本にして、芸術としての「書道」を学ぶ。「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻」「実用書」における書道の幅広い活動を通して、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 書の美の原理、理法を習得し基礎を身に付ける。 【後期】 前期で学習した内容をさらに深め、いろいろな書体の学習を通して表現力の向上を図る。		【前期】 ・用具、用材、姿勢、執筆法、用筆法など ・漢字の学習 1（楷書・行書） 1 ・篆刻の学習 ・漢字仮名交じり書の学習 1 ・創作作品の制作 ・鑑賞による合評会 1 ・ペン字の学習（はがき、手紙など） 1 【後期】 ・創作作品の制作 ・漢字の学習 2（草書、隸書、篆書） ・仮名の学習 ・漢字仮名交じり書の学習 2 ・ペン字の学習（ノート、履歴書など） 2 ・鑑賞による合評会 2		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・実技中心の授業となります。 ・筆やペンによる表現の楽しさを味わいましょう。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・墨・筆・紙などの教材費約 3，000円が必要です。		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
家 庭	家庭基礎	定 （昼・夜）	通年（2）	必履修 （普・総・国）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 1 年次での受講が望ましい。		・ ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎（教育図書）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
人の一生と家族・家庭や福祉、衣食住、消費生活について学習し、持続可能な社会を生きる生活の課題を主体的に解決し生活の充実向上を目指します。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 ・ 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭、子どもについて考えます。 ・ 健康で安全な食生活を営む基本的な知識と技術を身に付けます。 ・ 生活の中から課題を見つけ解決に向け実践しまとめます。 【後期】 ・ 健康で快適な衣生活を営む基本的な知識と技術を身に付けます。 ・ 高齢者の生活と福祉について考えます。 ・ 消費者として適切な意志決定に基づいた行動と生涯の生活設計について考えます。 ・ 安全で環境を考えた住生活を営む基本的な知識と技術を身に付けます。		【前期】 人生を見通し、共に生きる 自分らしい生き方と家族 子どもとかかわる 持続可能な家庭生活 食べる 栄養と食品 食品の衛生と安全 食事計画と調理 ホームプロジェクト 【後期】 着る 人と被服のかかわり 被服の素材・管理 高齢者の生活と福祉 高齢者とかかわる 社会とかかわる 消費者市民として生きる 多様な金融商品と家計マネジメント 消費行動と意思決定 住まう 人と住まいのかかわり 健康で安全な住まい環境 生活設計		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・ 実践的・体験的な活動を取り入れ、実生活に役立つ学習を進めます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ 実習の材料費（2，000円）		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
情報	情報Ⅰ	定（昼）	前期（2）、後期（2）	必履修 （普・国）
		定（夜）	通年（2）	
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
2年次での履修が望ましい。		情報Ⅰ Flex(実教出版)		
科 目 の 目 標 と 概 要				
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を身に付ける。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】【後期】 ■情報社会で求められる能力について学び、情報技術を適切に活用する技能を身に付ける。 ■個人情報や知的財産権の適切な取扱い方について理解する。 ■情報の暗号化やコンピュータウイルスについて理解する。 ■アナログとデジタルの違い、特徴やメリットを理解する。 ■情報技術を活用したコミュニケーションについて理解する。 ■情報デザインの考え方について理解する。 ■コンピュータの主要な装置の機能について理解する。 ■コンピュータでの演算の仕組みについて理解する。 ■問題解決の手順や処理の指示書を例に、アルゴリズムについて理解する。 ■アルゴリズムを基に、プログラムを作成できる技能を身に付ける。 ■インターネットでのデータの送受信について理解する。 ■情報セキュリティについて学び、脅威への対策について理解する。 ■データベースの概念や管理システムの機能について理解する。 ■収集したオープンデータからグラフを作成する方法やデータの分析方法について理解する。		【前期】【後期】 1 情報社会と問題解決 ①情報社会の特徴 ②問題解決 ③情報社会における法規と制度 ④情報セキュリティ 2 コミュニケーションと情報デザイン ①メディアとコミュニケーション ②情報のデジタル表現 ③情報デザイン 3 コンピュータと情報機器 ①コンピュータの仕組み ②コンピュータによる演算 4 プログラミングとモデル化 ①アルゴリズム ②プログラム ③モデル化 ④シミュレーションによる問題解決 5 ネットワークと情報システム ①情報システム ②ネットワーク ③情報セキュリティ 6 データベースとデータの活用 ①データベース ②データの活用		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・昼間制の生徒は、半期に集中して行います。 ・夜間制の生徒は、一年を通して行います。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・特になし		・生徒の実態や学校行事の都合等により、進度を変更修正する場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
商業	ビジネス基礎	定（昼）	前期（2）	必履修（総）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 1 年次の履修が望ましい。		・ ビジネス基礎（実教出版） ・ ビジネス基礎 準拠問題集（実教出版）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
・ 生産・流通・消費という経済を支える仕組みと、経済主体としての家計・企業・政府の関係を理解させるとともに企業が行う経済諸活動の総称であるビジネスの意義や役割について、身近な事例を取り上げて理解させる。 ・ 経済活動における流通の意義や役割及び経済的特質について、生産から消費に至る役割分担の変化や小売業の業種や業態の変化と関わらせて理解させる。 ・ 流通活動における売買取引や代金決済の仕組み及び売買計算の方法の基礎的・基本的な内容について理解させる。		1 商業の学習とビジネス ・ いざ、ビジネスの世界へ ・ 私たちの社会とビジネス 2 ビジネスとコミュニケーション ・ コミュニケーション ・ ビジネスマナー ・ 情報の入手と活用 3 経済と流通の基礎 ・ 経済の仕組みとビジネス ・ 経済活動と流通 4 さまざまなビジネス ・ ビジネスの種類 等 5 企業活動の基礎 ・ ビジネスと企業 等 6 ビジネスと売買取引 ・ 売買取引の手順 ・ 代金決済 7 ビジネス計算 ・ ビジネス計算の基礎 ・ ビジネス計算の応用 8 身近な地域のビジネス ・ さまざまな地域の魅力と課題 ・ 地域ビジネスの動向		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・ 授業は教科書を中心に、ビジネスや経済に関する内容を学び、ビジネスの諸活動の理解を深めます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ 問題集代金		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正する場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
商業	課題研究 講座名（課題研究 a）	定（昼）	後期（2）	選択必修 （総）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 2年次以降での受講とする。		特になし		
科 目 の 目 標 と 概 要				
商業やビジネスに関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、調査、研究を通して問題解決の能力や自発的、塑像的な学習態度を育てる。後期の末に発表会を実施し、研究内容を発表する。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【後期】 ・ 株式会社と財務諸表について ・ 個人もしくはグループで課題を設定し、調査・研究と発表		【後期】 ①株式会社の取引と財務諸表 会計分野の側面から企業のこと、ビジネスのことを学びます。 ② 課題の設定 商業の学習分野の内容の中から各自の興味・関心などに応じて、課題を設定します。 ③ レポートの作成および発表 自ら学び、自ら考え、主体的に判断するなど課題の解決を図る学習を通して得た結果をレポートとしてまとめ、発表します。		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
設定した課題を解決していく中で、より専門的な知識や考え方を身に付けることができます。また、問題解決の意識を持つことで、データに基づいた観点や論理的な思考をする力を伸ばします。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
特になし		生徒の実態に応じて、進度を変更修正する場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
商業	課題研究 講座名（キャリアガイダンス）	定（昼）	前期（2）	選択必修 （総）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 卒業年次での受講とする。 ・ 年間4単位までの受講とする。		特になし		
科 目 の 目 標 と 概 要				
進路先に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。面接ノートの作成や面接指導を通して、進路先の受験に対する意識を高める。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 ・ 現実感のある将来を見据えた進路目標を設定 ・ 進路先の受験に必要な面接や作文、履歴書作成の指導		【前期】 （1）進路研究 ・ 高校生活の振り返りなどを通して、自分の長所の見いだし ・ 自分の将来の見通しを持ちながら、卒業後の進路目標の設定 ・ 進路指導用の視聴覚教材の視聴 （2）面接試験対策指導 ・ 「面接ノート」の記入、面接試験の模擬練習で面接試験の対応力の身に付け （3）履歴書指導 ・ 履歴書に記載する内容を確認しながら、書き方練習の実施 （4）作文試験対策指導 ・ 就職用の作文、進学用の小論文の書き方の模擬練習 （5）筆記（一般常識）試験の模擬練習		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
面接試験の模擬練習や履歴書の記入等を通して、進路意識を高めながら、入社試験や入学試験に備えます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
特になし		生徒の実態に応じて、進度を変更修正する場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
商業	課題研究 講座名（調査・研究）	定（昼）	後期（2）	選択必修 （総）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 卒業年次での受講とする。 ・ 年間4単位までの受講とする。		特になし		
科 目 の 目 標 と 概 要				
商業やビジネスに関する課題を設定し、その解決を図る学習を通して、文書ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフト等のツールに関する理解と技術の深化を図るとともに、調査・研究活動を通して問題解決の能力や自発的、塑像的な学習態度を育てる。学期末に発表会を実施し、各自やグループの研究内容の発表を通して学習成果の共有を図る。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【後期】 ・ 個人もしくはグループで課題を設定し、調査・研究と発表する力を身に付ける。		【後期】 ① 課題の設定 商業の学習分野の内容（マーケティング分野、ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野）の中から各自の興味・関心、進路希望などに応じて、課題を設定します。 ② レポートの作成および発表 自ら学び、自ら考え、主体的に判断するなど課題の解決を図る学習を通して得た結果をレポートとしてまとめ、発表します。		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
設定した課題を解決していく中で、より専門的な知識や考え方を身に付けることができます。また、問題解決の意識を持つことで、データに基づいた観点や論理的な思考をする力を伸ばします。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
特になし		生徒の実態に応じて、進度を変更修正する場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
商業	情報処理	定（昼）	前期（2）	必履修（総）
受講の条件		使用教科書・教材		
・1年次での履修が望ましい		・情報処理Prologue of Computer （実教出版） ・情報処理検定模擬試験問題集 情報基礎 （実教出版）		
科目の目標と概要				
・コンピュータやネットワークを活用して、ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、適切に表現する知識と技術を習得する。全商情報処理検定 情報基礎の合格を目指す。 ・個人情報や知的財産の保護に留意して、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。				
科目のねらい		おもな学習内容		
・全商情報処理検定試験 情報基礎の合格を目指します。 ・教科情報の「情報Ⅰ」の代替科目としているため「情報Ⅰ」の内容についても学習します。 ・わかりやすい報告書の作成方法について学びます。 ・適切な意思決定について学びます。		・情報の意義と役割。 ・情報モラルや個人情報・知的財産の保護。 ・コンピュータのハードウェア・ソフトウェア。 ・通信ネットワークの役割としくみ、Web情報の検索や収集、セキュリティ。 ・表計算ソフト（Excel）の基本操作、基本的な関数、グラフ作成、情報の整列・検索・抽出操作。 ・ワープロソフト（Word）の基本操作。 ・プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作。		
受講者へのメッセージ				
・主に、表計算ソフト（Excel）を利用し課題を作成しながら学習を進めます。 ・原則として全商情報処理検定 情報基礎を受検します。				
実習材料費など		留意事項など		
・問題集代金 ・全商情報処理検定 情報基礎 検定試験受験料		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
家 庭	家庭総合	定（昼）	通年(4)	必履修 （生）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・生活文化科１年次が受講する。		・ウェルビーイングにつなぐ 家庭総合（教育図書）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とののかかわりと福祉、消費生活、衣食住について学習し、生活の中の課題を主体的に解決し生活の充実向上を目指します。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 ・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族と社会との関わりについて学び、自分らしい生き方を考える。 ・食文化に関心を持ち、健康で安全な食生活の自立に必要な知識と技術を身に付けることができる。 ・食物調理技術検定３級に取り組むことができる。 ・住文化に関心を持ち、住空間の計画や安全な住環境など自立に必要な知識と技術について知ることができる。 ・生活の中から課題を見つけ実践し、まとめることができる。 【後期】 ・子どもの発達と子どもの遊びや生活、子育て支援について学び理解することができる。保育について考えることができる。 ・高齢者の生活と福祉などについて学び、共生することの重要性や家族及び地域や社会の果たす役割について考えることができる。 ・消費者としての自立を目指し適切な意志決定に基づいた行動と生涯の生活設計について考えることができる。生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解することができる。 ・衣文化に関心を持ち、被服管理や被服製作など衣生活の自立に必要な知識と技術を身につけることができる。 ・被服製作技術検定３級に取り組むことができる。		【前期】 ○生涯の生活設計 ○青年期の自立と家族・家庭 ○食生活と健康 ○家庭科技術検定食物調理３級受験 ○消費生活と経済計画 ○住生活と住環境 ○ホームプロジェクト 【後期】 ○子どもの生活と保育、赤ちゃんとのふれあい体験 ○高齢期の生活と福祉 ○共生社会と福祉 ○消費生活と経済計画 ○持続可能なライフスタイルと環境 ○衣生活と健康 ○家庭科技術検定被服製作３級受験		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・実験・実習・体験学習等を取り入れ実生活に役立てる学習を進めます。食物調理技術検定・被服製作技術検定に挑戦します。 ・高校生の赤ちゃんふれあい体験を実施予定。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
検定料・実習費等 年間約５，０００円 （半期受講約２，５００円）		・生徒の実態や行事の都合等により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
家庭	生活産業基礎	定（昼）	通年（２）	必履修(生)
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・生活文化科1年次が受講する。		・生活産業基礎（実教出版） ・ワークシート		
科 目 の 目 標 と 概 要				
人々の生活を支えている衣食住、保育、家庭看護や介護などにかかわる「生活産業」の意義と役割を理解し、生活産業の種類や特徴、関連する職業について学習します。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】【後期】 1 私たちの生活が衣食住、保育、家庭看護や介護などのヒューマンサービスにかかわる産業に支えられていることを理解します。 2 家庭生活を支える生活産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関心を高めます。 3 生活産業における各分野のスペシャリストに必要な専門的知識や技術について理解し商品やサービスについての実践的な態度を身に付けます。 4 専門科目の学習と職業生活のかかわりを理解し、職業資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを考えます。		【前期】 「生活産業基礎」を学ぶにあたって ・生活産業とは ・職業と産業 生活の変化と生活産業 ・産業構造の変化 ・社会の変化と価値観の多様化 ・生活産業の発展 生活の変化に応じた商品・サービスの提供 ・消費者ニーズの把握 ・商品・サービスの開発及び販売・提供 ・関連法規 生活産業と職業 ・食生活関連分野の産業と職業 ・衣生活関連分野の産業と職業 【後期】 生活産業と職業 ・住生活関連分野の産業と職業 ・ヒューマンサービス関連分野の産業と職業 職業生活と自己実現		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・「生活産業基礎」は生活文化科で学んでいくうえでのベースになる科目であり、他の専門科目との関連が深い科目です。 ・生活産業現場などの見学や聞き取り調査など具体的な事例を通して理解を深めます。 ・生活文化科で学ぶ意義を考えながら授業に臨んでください。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・実習費（１，０００円）		・生徒の実態や行事の都合、外部講師などの都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
家庭	課題研究	定（昼）	通年（２）	必履修（生）
受講の条件		使用教科書・教材		
・３年次で「生活と情報」とともに受講するのが望ましい。		・ワークシート		
科目の目標と概要				
専門教科家庭の各科目で学習した知識と技術を生かして、課題を設定し、課題の解決を目指して調査・研究を行います。年度末には、研究の成果をまとめ、発表する機会を設けます。				
科目のねらい		おもな学習内容		
【前期】 ・生活文化科「課題研究」の学ぶ意味を理解しながら課題の研究に取り組み、実践を通して生活の改善・向上を図る能力を身に付けます。 ・研究の成果を工夫してまとめます。 【後期】 ・研究の成果をわかりやすく効果的にまとめ、発表します。 ・フェアウェルパーティーの計画・実施を通して、パーティー料理の献立作成からもてなしの方法までを学びます。		【前期】 ・専門学科において「課題研究」を学ぶ意味 ・課題解決の進め方 ・研究課題の設定 ・研究の実施計画 ・実践活動 ・研究のまとめ 【後期】 ・研究のまとめ ・研究の効果的なプレゼンテーション ・研究発表の実施 ・研究発表の評価 ・フェアウェルパーティーの計画 ・献立作成 ・調理方法、調理手順等の計画 ・調理実習（試作による練習） ・フェアウェルパーティーのまとめ		
受講者へのメッセージ				
・自分の研究課題を設定し、生活文化科で学習した事柄をもとに、課題にそって情報を収集し、研究を進めます。 ・生活文化科での学びの総仕上げの科目として、課題に臨んでください。				
実習材料費など		留意事項など		
・実習費（４，０００円）		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正や学習順序の入れ替え、内容の精選を行うこともあります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
家庭	課題研究（課題研究キャリア）	定（昼）	通年（２）	必修 （生）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・卒業年次の受講が望ましい。		・ワークシート ・ステップアップ一般常識		
科 目 の 目 標 と 概 要				
進路決定に向け、進路先に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付けます。面接ノートの作成や面接指導を通して、進路先受験に対する意識を高め、進路を決定します。 進路先に関する調査・研究を行い、社会人として必要な知識や技術を身に付けます。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 ・各自の進路に関わる企業や進学先を調査・研究します。 ・進路先受験に必要な面接や作文の練習、履歴書の書き方を学びます。		【前期】 （１）進路先の研究 ・前年度の求人票や進学先から調べる。 ・進路指導用のビデオを見る。 （２）面接練習 ・面接ノートの記入・模擬面接練習 （３）履歴書指導 ・履歴書の記入について （４）作文指導 ・就職用作文の書き方指導 ・進学用小論文の書き方指導 （５）一般常識		
【後期】 ・各自の進路に関連する課題を設定し、調査・研究を進めていきます。		【後期】 課題の設定 ・各自の進路に関連する課題を設定します。 ・進路に関するレポートの作成及び発表をします。 ・自ら調査・研究を進め、課題に取り組み、レポートとしてまとめ発表します。		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・面接ノートの記入、面接模擬練習や履歴書の書き方の練習等を通して、進路実現を図るための意識を高めます。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
なし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
家庭	生活産業情報	定（昼）	通年（４）	必履修 （生）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・生活文化科2～4年次が受講する。		・生活産業情報（実教出版） ・ビジネス文書実務検定問題集３級（実教出版） ・全商情報処理検定問題集（実教出版）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークなどの情報手段を円滑に活用できるよう、職業人として情報モラルやセキュリティ管理に留意し、情報に関する知識と技術を習得し、生活産業の各分野で情報及び情報手段を適切に活用する能力と実践的な態度を育てます。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 ・高度情報処理通信社会における産業や生活の変化と、生活産業におけるコンピュータの役割や利用状況について学習します。 ・コンピュータによる情報処理手順やいくつかのアプリケーションソフトウェアの基本操作について習得します。 【後期】 ・各種アプリケーションソフトウェアを利用し、生活産業と関連する情報の処理、分析、プレゼンテーションを行います。 ・高度情報処理通信社会における産業や生活の変化と、生活産業におけるコンピュータの役割や利用状況について学習します。		【前期】 ・情報化の進展と生活産業 情報化の進展と社会 生活産業における情報化の進展 ・情報機器と情報通信ネットワーク 情報機器の仕組み 情報通信ネットワークの仕組み ・生活産業における情報及び情報手段の活用（１） 文書処理ソフトウェアの活用 情報の収集、処理、分析、発信 表計算ソフトウェアの活用 【後期】 ・生活産業における情報及び情報手段の活用（２） 情報の収集、処理、分析、発信 表計算ソフトウェアの活用 プレゼンテーションソフトウェアを活用した発表 ・情報モラルとセキュリティ 情報のモラル 情報のセキュリティ管理		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・情報及び情報手段を適切に活用できる能力を身に付けます。情報処理検定、ビジネス文書実務検定に挑戦します。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・問題集、検定受検料等（6,000円）		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
英語	ディベート・ディスカッションⅠ	定（夜）	通年（２）	必履修 （国）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・特になし		・プリント		
科 目 の 目 標 と 概 要				
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
英文法の知識を学ぶとともに、その知識を活用して以下のような能力・態度を身に付けましょう。 ・自分の意見を英語で表現する （例：自由英作文、スピーチ） ・他者と英語で積極的にコミュニケーションを図る （例：受講者同士、教員との英会話活動）		【前期】 ・文構造（5文型） ・時制 ・完了形 ・助動詞 ・受け身 【後期】 ・to不定詞 ・動名詞 ・分詞 ・関係代名詞 ・関係副詞 ・比較表現 ・仮定法 【通年】 ・ペアやグループでの会話活動 ・テーマに沿った英作文やプレゼンテーション ・与えられたテーマについてのディベート		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・プリント等を使用して文法知識を学んでいきます。また、その知識を生かしてさまざまな表現活動にチャレンジします。失敗を恐れず、積極的に英語を使いましょう。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
なし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
国際	中国語入門 （ 共学講座名 中国語入門 ）	定 （ 夜 ）	通年（2）	選択必履修 （ 国 ）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ 中国語に興味関心を持つ者。		・ 誌上体験中国留学初級中国語 （朝日出版社）		
科 目 の 目 標 と 概 要				
中国語の基礎を学ぶとともに、中国語に慣れ親しむことをめざす。 ・ 発音、基礎構文、日常会話などを学習する。 ・ 中国文化についても学習する。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 【後期】 ・ 初めての中国語に親しみ、慣れる。次第に話す能力を身に付ける。 ・ 短文構成の文章を繰り返し読み、聞き、書いて本文の暗記に傾注する。 ・ CDや範読により聞く力を養いつつ、授業の中で対話練習もし、中国語の雰囲気慣れる。		【前期】 ・ 発音の基礎（ピンインと声調） ・ あいさつ用語、自己紹介 ・ 家族の名称、数字の読み方 ・ 先生や友達との日常会話 【後期】 ・ 肯定と否定の表現 ・ 中国の風景、習慣 ・ 文法のまとめ（補語、介詞他） ・ 文章の読解と朗読		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・ やさしく大きな声で読み、何度も書いて覚えます。 ・ 初めての人でも大丈夫です。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・ テキスト代金として約2,500円必要です。		・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
国際	ハングル入門 （共学講座名 ハングル入門）	定 （ 夜 ）	通年（２）	選択必履修 （ 国 ）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・ハングルに興味関心を持つ者。		・プリント、その他		
科 目 の 目 標 と 概 要				
ハングルの読み書きを習得するとともに、韓国語で聞いたり話したりして、身近な話題のための基礎的な表現を習得し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 ・ハングル文字を学ぶ。 ・韓国語で挨拶することができる。		【前期】 ・韓国語の基本となるハングル文字を、発音練習を中心に覚える。 ・簡単な挨拶（自己紹介など）を練習する。 ・簡単な動詞を覚える。		
【後期】 ・短い会話ができる。 ・相手に質問する。 ・簡単な文法事項を学ぶ。 ・数の数え方やカレンダーの読み方を学ぶ。		【後期】 ・前期で学んだ文字や動詞を復習する。 ・挨拶の後に続くような簡単な会話文を学ぶ。 ・簡単な文法事項を使って、旅行に役立つような会話を学ぶ。 ・数の数え方など、身の回りのものを韓国語で話す練習をする。		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・韓国の文化などについても学ぶ機会があるので、言語だけではなく、韓国の文化や習慣について興味がある生徒の受講をお勧めします。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・特に必要はありませんが、テキストを購入したい場合は申し出てください。		・生徒の実態や行事の都合により、項目進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科 目 名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
国際	ロシア語入門	定（夜）	通年（2）	選択必修 （国）
受 講 の 条 件		使 用 教 科 書 ・ 教 材		
・特になし		・創って学ぶ！ シン・ロシア語入門（朝日出版社） ・プリント		
科 目 の 目 標 と 概 要				
・ロシア語に親しみ、簡単な会話ができるようになる。 ・ロシアの歴史や文化に対する関心を深め国際時代を生きる態度を養う。				
科 目 の ね ら い		お も な 学 習 内 容		
【前期】 ・あいさつを学び、ロシア語で簡単なコミュニケーションができる。 ・ロシア語のアルファベットを学び、正しく発音できる。 ・ロシア語の名詞の種類を学び、適切に使用できる。 【後期】 ・前期に学んだことを踏まえて、さらに詳しいロシア語文法を学ぶことで、長い文章でも読めるようになる。 ・実践的な会話表現を学び、前期より長い会話ができる。 ・ロシアの伝統料理を、ロシア語のレシピで作り、文化について学ぶ。		【前期】 ・あいさつ ・アルファベット ・名詞の性 ・所有代名詞 ・複数形 ・指示代名詞 ・形容詞 【後期】 ・動詞の現在変化 ・動詞の過去変化 ・前置格 ・生格 ・ロシア文化		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ				
・社会人の方が多く学ばれている講座です。文法の問題演習だけでなく、ゲームをしたりDVDを見たりもします。後期にはロシア料理を作ります。楽しく勉強しましょう。				
実 習 材 料 費 な ど		留 意 事 項 な ど		
・教材費２０００円程度。		・上記の内容は変更されることがあります。		